



気になるキーワード

関西学院大学法学部・大学院法学研究科 教授 金崎 健太郎

あらゆる政策は時代と社会の変化に適応して変わっていくものであるが、時として社会の注目を浴びるテーマに沿った政策が期待され、支持されることもある。同じような目的を有する政策であっても、その時代にあった衣装を纏うことで注目や支持が得られやすくなる点では、政策立案にも人気取りの視点が必要ということであろうか。時代のトレンドをおさえて決め手となるキーワードを理解し、政策体系の中に入れ込んでいくこともまた、政策担当者に求められるテクニックのひとつと言える。

そのような最近のキーワードのひとつに「SDGs」（エスディジーズ）がある。企業や自治体の活動において最近よく聞くが、何なのかと思っている方も多いのではないだろうか。『SDGs入門』（日経文庫）（村上芽・渡辺珠子／著、日本経済新聞出版社、990円）はそのような疑問を持つ人におすすめである。SDGsはSustainable Development Goalsの略で「持続可能な開発目標」と訳され、2015年に国連総会で採択された17の目標を指している。そこには「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を

終わらせる」、「持続可能な生産消費形態を確保する」など将来世界がこうありたいという目標が並んでおり、簡単にいえば、世界全体で掲げるこうした目標に対して個々の企業や自治体、個人がどのように取り組むのかという話なのであるが、

この本では今さら人には聞きにくいSDGsの基本的な内容から企業や個人での取組へのヒントまでが平易に解説されている。

もうひとつのキーワードとして取り上げるのが「5G」（ファイブジー、第5世代移動通信システム）である。5Gサービスが日本でもいよいよ今年の春から始まるが、高速・大容量でこれまで以上に便利になりそうだな、という程度 of 感覚の方が多くのではないだろうか。私たちの生活やビジネスを変えとも言われるこの5Gについて解説したのが『5Gビジネス』（日経文庫）（亀井卓也／著、日本経済新聞出版社、946円）である。この本では

5Gの仕組みから、生活やビジネスに与えるインパクトまでが国内外の最新情報を盛り込みながら解説されている。5Gはこれまでの4Gに比べると「高速・大容量」となるだけでなく、「多数同時接続」「低遅延・高信頼性」という新しい特徴が加わるとい

う。インターネットに常時接続している「コネクテッドカー」や医療現場での「遠隔手術支援」など、5Gを利用したサービスによって生活がどのように変わるのか、また産業や関係する業界にどのような変化がもたらされるのかなど「Society 5.0」の時代が具体的にイメージできる一方で、5Gへの高すぎる期待が失望に変わる危険性が指摘されていることも興味深い。



『SDGs入門』 村上芽・渡辺珠子／著 日本経済新聞出版社



『5Gビジネス』 亀井卓也／著 日本経済新聞出版社